

2019. 8. 8

## 言葉の力

あなたは、誰かの話を聞いたり、本を読んだりして心の底から湧き上がってくるような感覚を味わったことはありますか？

内容に深く感動したり、新しい気付きを得た時などそのように感じた方もいるでしょう。

営業（特に飛び込み）をした事がある方だと、朝からずーと断られ続け、ヘトヘトになっているところに、ちよとした労いの言葉をかけられ、やる気が回復して不思議と足取りも軽くなった！という経験がある方もいらっしゃいます。

スポーツの応援の多いホーム側のチームが試合を有利にすすめるのは皆土もご存知かもしれませんが。

このように私達が普段何気なく使っている言葉には大きな力があります。

使い方によってはマイナスに働きかける事もあります。

よほど意識していないと気がぬうちにだんだん心の言葉もマイナス方向に進む傾向があるのではないのでしょうか？

育った環境も今の生活環境も異なる人達で構成されている会社組織で毎日時を共にするのであれば、全員がプラス発想の言葉を発し続けるのは不可能かもしれません。しかし意識して努力する事はできます。

特に店の責任者は言葉の力をコントロールするよう心がけた方がいいです。

同じ内容を伝えているのに、やる気を奪いきり、不満だけを膨らませる結果と、

やる気が湧きあがり、スッキリした気持ちでリセットされるのではその後のパフォーマンスに大きな差が出るのではないのでしょうか？

皆さんは「インプット」をご存知ですか？

スポーツの試合直前に監督やコーチが短く、熱い話をして選手を奮い立たせ、通常よりも高いパフォーマンスを発揮するよう鼓舞するトークの事です。

例えば、

今まで一度も勝った事のない相手チームと試合する時、

「今日も勝てないかもしれないが、頑張って練習してきたのだから、胸を借りるつもりでせろう」と言われるのと

「今まで勝つのが、だが今日は違う、我々は勝つ為の準備をした。ここにいる皆を驚かせてやる。今日の主役はお前たちだ!!」

と送り出されるのでは、選手の動きは全く違うでしょう。

「勝てないかもしれないが…」というマイナスのキーワードにより、全員に負けるという意識がすりにまわるのと、

「今日は自分達が勝つ」というプラスのキーワードが全員に働きかける差は非常に大きいのだそうです。

これは、会議やミーティングでは言葉の力をどのように使っていますか？

「ミーティングは皆を元気にする為に行なう」のを忘れないようにしましょう。

出来ない理由を並べたり、愚痴を披露し合ったり... 或いは、リムを指差して尻を叩くような内容も、誰かの仕事ぶりを皆の前で吊るし上げ、叱るような話では逆効果でしょう。それでは参加する事すら嫌な気持ちになります。

反省する事がある場合にも話が終わった後に全員が、「よし！明日から頑張ろう！」という気持ちになるように意識的に進めましょう。

明るく元気なお店はとても魅力的です。

誰もが働けばはそのような店を選ぶのではないのでしょうか？

働き手の定着率も良くなる事でしょう。

また、言葉の力には自分の気持ちもマイナスに傾く出来事であってもプラスに引き戻す事もできるセルフベックトークです。

突然、事故や病気で歩けなくなったら、どうですか？ 誰でも落胆してしまいます。

「あれも、これも出来なくなった」「この先、こんな風に事態が悪くなるのでは」と、考えてしまうかも知れません。すると人はどんどん力を失い、生きる気すら無くなってしまふ人もいます。

そのような時に、事実をどう受け止めるか、という「捉え方変換」で自分で自分に声を掛けて戻り、元気を取り戻す努力ができるようです。実際、

「今の自分だからこぞできる事がある」「今の自分でも生きる価値がある」

「出来ない事は、素直に人に頼める自分がある」と、何度も語りかけ、一度は人生に幕を下ろそうとしていた方が生き生きと歩み始めた、という経験もあるそうです。

ここまでの状況になる事は、稀かも知れませんが、これは戦場で活力が増し加わるような言葉を選んで使い、皆が元気に過ごせる環境を作る方が、またやがていのではないのでしょうか？

聖書にもこんな言葉があります。

「穏やかな舌は命の木であり、悪意ある言葉は人を落胆させる」

2019-8-8 No3.

---

穏やかで心地よい言葉を選んで用いるようにいたしましょう。

立派な事を言わねばと構える必要はありません。

最初に述べたように、ちよとしたねぎらいの言葉が、元気を取り戻し、足取りを軽くさせるのだ。

一緒に働く人達に関心を持ち、良い言葉を発するよう意識していきましょう。  
そして、活かに満ち、愛の溢れる職場を目指して行きましょう。